日本キリスト教団 東金教会〔４９〕

2019年12月22日　降誕前第１主日(クリスマス)礼拝

年度目標　《キリストに根を下ろして生きる》

聖　句　キリストに根を下ろして造り上げられ、教えられた通りの信仰をしっかり守って…　コロサイ2章7節

【礼拝式次第】

司式	井	上里井枝延川寺上
奏楽	中	
受付	今	
案内	三	
名札	安	
礼拝感謝祈祷	森	
〃　〃	薬	師
招詞	イザヤ60:1～2	井上
交読	２４	司・会衆田
聖書	イザヤ35:1～4102	藤田同
讃美歌	１０２	一同
聖書	ルカ1:26～38	武田
讃美歌	９７	一同
聖書	ルカ2:8～20	森川
讃美歌	１１５	一同
聖書	ヨハネの手紙Ⅰ4:9-16	土屋
聖歌	ハレルヤクリスマス	聖歌隊
み言葉の伝え		朴
〈天に栄え、地に安き〉		
讃美歌	１１４	一同
献金		
礼拝感謝		森川
		薬師寺
報告		井上
頌栄	５４１	一同
祝祷(派遣)		朴
後奏	新聖歌５８	聖歌隊

【集会案内】

聖書研究祈祷会　（休会）
早天祈祷会　月～金7時(除祭日)メーヤー館
聖書輪読会　12月２９日(日)9:50-10:10
礼拝準備祈祷会　12月29日(日)10:25-10:30

【報告】

☆クリスマスおめでとうございます。世の急速な流れの中で様々の思想や習慣に流され、教会の本質が世の諸相と別なもの、神のご支配の中に生きる群であることを忘れ勝ちな私達ですが、クリスマスのこのとき静まって私たちが神のご支配に生きる民であることを確認したいと思います。
☆本日の礼拝は朴　　牧師に守って戴きました。礼拝後は祝会を持ちます。皆様ご出席下さい。尚、２４日の燭火礼拝、２９日の歳末礼拝は中村牧師の担当です
☆12月21日持たれました教会学校クリスマス祝会は７０人の子ども達、御父母、教師を合わせて１３０人で守りました。ご加祷有難うございました。
☆幼稚園は20日無事第二学期を終了致しました。ご加祷有難うございました。
☆牧師冬期休暇により１２/２５、2020年１/１、１/８の祈祷会は休会とさせて戴きます。
☆12月31日(火)午後11時45分より除夜祈祷会が待たれます。皆さまご出席下さい
☆１２月２８日～2020年１月３日の幼・保園は休園となります。
☆クリスマスカード…掲示板
☆2020年1月よりの奉仕スケジュール表が出来ております。週報棚よりお取り下さい。
☆２４日午後７時クリスマス燭火礼拝が持たれます。近隣の方々等大勢の方々とご降誕の主を讃美したく願っております。努めて燭火礼拝にご出席下さい。

【臨時総会公告】

議題…朴牧師辞任の件
日時…2020.1.26礼拝後　場所…礼拝堂

【12月22日～12月28日誕生者】

○小川　姉　○鐘　姉　○長野　兄
※互いに主に繋がる枝々として祈り合わせて行きましょう。

【先週集会状況】

集会名	男	女	計
主日礼拝(12/15	15	28	43
聖研祈祷会(12/18)			
聖書輪読会(12/15)	2	3	5
教会学校(12/15)	2	11	13
山田台集会(12/17)	5	8	13

早天祈祷会			
日	男	女	計
12/16	1	1	2
12/17	1	1	2
12/18	1	1	2
12/19	1	1	2
12/20	1	1	2

主日礼拝献金(１２/15)……５８,９１０円
教会学校献金(１２/８)……１６,３６１円

【今日のメッセージ】

題　［天には栄え、地に安き］
聖　書　Ⅰヨハネ4:9～16
1・
2・
3・

【次週(12月29日)礼拝式案内】

み言葉の伝え〈キリストにある自由〉
聖　書　ガラテヤ書５:１～６
交読文３２
讃美歌　４０８番　５３２番
新聖歌　１７６番

【次週(12月29日)礼拝式当番者】

御言葉の伝え	…	中村田
司式者	…	藤井
奏楽者	…	中本
受付者	…	津久屋
案内者	…	藤王
名札当番	…	土枝
礼拝感謝祈祷	…	三部
〃　〃	…	岡諭
csお話し	…	幼稚園教
会堂清掃者	…	
〃　〃	…	
花係	…	中村
看板書き	…	澤本

【聖書から】

イエスはお答えになった。「・・・貧しい人は福音を告げ知らされている。わたしにつまずかない人は幸いである。」
マタイによる福音書一一章四-七節

右に掲げた御言葉は、洗礼者ヨハネが弟子たちに託して尋ねさせた問いに対する主イエスの答えの結びである。問いは主イエスへの疑惑から生まれたものであり、答えは主イエスの自分が誰であるかを告げている。だが決して直接的なものではない。その自己証言は疑惑を解消するものではなく、信仰へと招くものである。
ヨハネはつまずきかけていた。主イエスの言動が、メシアの先駆者としては合致せず、審判者になるではなく卑賤にとどまり、社会から排除されていた人々に寄り添い「福音」を告げ知らせておられたからである。
喜ばしきおとずれを意味する「福音」の喜びはつまずきの向こうにある。なぜなら、主イエスご自身には必ずやつまずきが伴うからである。われわれの期待や願望のままに応える方ではない。むしろ富を捨て従えと招く。そう招く御方自身が人々から捨てられ犯罪者のごとく処刑された。それゆえ、弟子たちもつまずいた。
つまずきは、神の子の栄光、尊厳、力、富とは真逆の、恥辱、卑賤、非力、貧しさに貫かれたその生涯にある。この背理、矛盾、不条理の向こうに信仰がある。従って、真摯に主イエスと向き合うなら、つまずきは避けられない。「信仰は躓きの可能性という脆い器のなかに納められている」（キルケゴール）。主はつまずきの向こうにあるこの世の価値では計り得ない罪の赦し、永遠の命、救いに招き入れ給う。
この世を恐れ、貧乏や不幸や困苦や逆境や死を恐れるとき、つまずきはあなたのもの、わたしのものとなる。だからこそ「わたしにつまずかない人は幸い」と言い給う。クリスマスの真の喜びは、「飼い葉桶の中に寝ている乳飲み子」を拝む者たちにこそあるのである。
―梅田與四男先生十二月十五日説教―

【礼拝心得】

①礼拝は前奏から後奏までを守る。
②入堂したら私語を交さず、前奏までの時を黙想する。
③遅れてきた者は静かに入堂し、特に祈祷の時は入堂を控え、その場で共に祈りを守る。
④礼拝後は互いに挨拶を交し、交わりの時を持つ。
⑤各自週報棚を整理し、欠席者に週報を届ける。